

会 議 録

- | | | |
|---|---------|---|
| 1 | 会 議 名 | 第2回 旧門司駅関連遺構等の展示方策等検討懇話会 |
| 2 | 会 議 種 別 | 市政運営上の会合 |
| 3 | 議 題 | 構成員による意見交換等（事務局説明後、意見交換） |
| 4 | 開 催 日 時 | 令和7年8月22日（金）13時30分 ～15時30分 |
| 5 | 開 催 場 所 | 北九州市庁舎 3階 特別会議室 A
（北九州市小倉北区城内1－1） |
| 6 | 出席者氏名 | 別添「出席者名簿」のとおり |
| 7 | 議 事 概 要 | 事務局より、第1回の構成員からの意見をもとに作成した展示の目的や方向性、構成案を説明し、各構成員より、文化財や土木、建築、歴史の専門的知見に加え、観光や若者、郷土史など様々な観点から今後の展示方策等に関する意見を聴取した。 |
| 8 | 会 議 経 過 | 下記のとおり |
| 9 | 問い合わせ先 | 都市戦略局都市再推進部事業推進課再開発係
電話番号 093-582-2469 |

第2回 旧門司駅関連遺構等の展示方策等検討懇話会 出席者名簿

1 構成員（敬称略）

分野	所属・役職等	氏名
地元	門司郷土会 会長	銭谷 十九雄
	門司郷土会 幹事	内山 昌子
歴史	北九州市文化財保護審議会 会長	永尾 正剛
地域活性化	北九州市立大学地域戦略研究所 教授	南 博
鉄道・土木史	(公社)土木学会 フェロー会員	小野田 滋
展示	九州鉄道記念館 館長	松本 博文
観光	(公財)北九州観光コンベンション協会 専務理事	小石 富美恵
若者	北九州市Z世代課パートナー（社会人）	一ノ瀬 歩美

近代建築史	北九州市立大学建築デザイン学科 講師	山田 浩史 ※当日は所用のため欠席
若者	北九州市Z世代課パートナー（大学生）	足達 凜花 ※当日は所用のため欠席

2 北九州市

所属・役職等	氏名
都市戦略局都市再生推進部長	正野 睦朗
都市戦略局都市再生推進部事業推進課長	近松 芳朗
都市ブランド創造局総務文化部文化企画課長	楠本 祐子
都市ブランド創造局総務文化部埋蔵文化財担当課長	原田 智也

(会議経過)

1 開会

(事務局)

定刻になりましたので、第2回旧門司駅関連遺構等の展示方策等検討懇話会を始めます。本日の司会を務めさせていただきます、北九州市都市戦略局事業推進課長の近松と申します。よろしくお願いします。

本日は会場に7名、オンラインに1名の委員の皆様にご出席いただいております。ありがとうございます。

それでは開会にあたりまして、北九州市都市戦略局都市再生推進部長の正野睦朗よりご挨拶を申し上げます。

(都市再生推進部長)

皆様、こんにちは。改めまして、都市再生推進部長の正野でございます。本日は第2回旧門司駅関連遺構等の展示方策等検討懇話会となります。お暑い中、また、ご多用の中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

前回の懇話会では、旧門司駅関連の遺構が、記憶の継承という新たなステージに入りましたということをお伝えしました。そしてこの貴重な遺構を門司港地区の歴史や文化、産業、人々の暮らしに思いを馳せることができるような、地域の宝、そして地域の誇りとして次世代へ、しっかり引き継いでいかなければいけないということを、意を新たに私共もしっかり取り組みたいということをお伝えしました。

また、委員の皆様方からは大変多くの貴重なご意見をいただきました。代表で言いますと、展示の目的、それから伝える相手方をしっかりと明確にしないといけない。旧門司駅が果たした歴史的役割を丁寧に伝える必要があるということ、それから、観光資源として門司港全体のストーリーと連動した形で伝えるべきではないか。そして専門性は持ちつつも若い方を始めとして、やはり分かりやすくちゃんとお伝えするというのも大事ということで、示唆に富んだご意見をいただきました。

本日は、第1回のご意見を踏まえて、私たちに考えました展示方策の叩き台をお示しいたします。これに対して、また皆様方の専門的見地、お立場から忌憚のないご意見、建設的な意見を頂戴しまして、実りある議論をしていただきたいと思いますので、限られた時間ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

それでは配付資料の確認をさせていただきます。最初に議事次第、次に構成員名簿、配席図、資料といたしまして「展示方策の基本的な考え方」となっております。資料に不足はございませんでしょうか。

なお本懇話会は開催要項第四条に基づき、一般の方や報道関係の皆様への傍聴可としており、後日議事録を北九州市のホームページに掲載いたします。

それでは次第に沿って進行いたします。

2 構成員の紹介

(事務局)

構成員に変更がありましたのでご紹介させていただきます。公益財団法人北九州観光コンベンション協会から小石 富美恵様でございます。本日は所用のため代理で同協会事務局長の田原 温さまにご出席いただいております。

続きまして、前回ご都合によりご欠席でした北九州市 Z 世代課パートナー、一之瀬 歩美様にも本日は会場にご参加いただいております。改めてご紹介申し上げます。

また北九州市立大学建築デザイン学科講師山田 浩史様、北九州市 Z 世代課パートナーの足達 凜花様は本日所要のためご欠席となっております。それでは早速議事に移りたいと思いますので、これからの進行は座長の南様にお願いいたします。

3 構成員による意見交換等

(南座長)

それでは、次第の 3 ですね。構成員による意見交換等という部分に入ってまいりたいと思います。

本日の次第をご覧くださいますと、基本的に次第の内容は、実質的にこれのみという形になります。

進め方に関してなんですけれども、まず始めに事務局から資料の説明をいただいた後、第 1 回の時と同様に委員お一人ずつからご発言をいただければと考えております。

僭越ながら、順番なんですけれども、第 1 回の時と同様に永尾さん、小野田さん、銭谷さん、内山さん、松本さん、あと小石さんの代理の田原さん、それから一ノ瀬さんの順で、事務局の説明の後、ご発言いただきたいと思います。

またその後、本日ご欠席の山田さんと足達さんから、事前に事務局にコメントが寄せられていますので、それをご紹介いただくという形で進めさせていただければと思います。

それでは、早速事務局より説明をお願いします。

（事務局（事業推進課））

事務局よりご説明させていただきます。資料をご覧ください。

第1回懇話会でいただいたご意見のうち、主だったものをご紹介します。

委員の皆様より、展示の目的と対象を明確にすべきというご意見、門司港の近代化とともに、初代門司駅が果たした役割を伝えるべきというご意見をいただきました。そこに何があったのか遺構展示物がどの部分に当たるのかを表現すべきというご意見や、観光資源として街全体でストーリー性ある展示とすべきという観光目線でのご意見もありました。専門性のあるものを誰にでも分かりやすく伝えられる表現とすべきというご意見もあり、SNS や QR の活用、鉄道をモチーフとした施設デザイン、短文でしっかりと表現するなど、興味を持ってもらえるものとすべきというご意見もありました。

次のスライドですが、第1回懇話会でいただいたご意見をもとに展示の目的や方向性、構成案についてお示しいたします。

まず展示の目的です。門司港地区の歴史や文化、産業、そして当時の人々の暮らしなどに思いを馳せられる地域の宝として、旧門司駅の遺構を次世代に継承していくことを目的としています。

この目的を実現するために、次の三つのコンセプトを掲げております。

一つ目はストーリーでつなぐ空間です。門司港駅を起点にし、複合公共施設をハブとして地域に回遊展開していく構成としていきたいと考えております。

二つ目に見せるデザイン×デジタルです。AR や QR コードといったデジタル技術の活用やデザインを工夫することで、分かりやすく興味を引く展示を目指します。

三つ目は誰でも楽しめる展示です。専門知識がなくても楽しめるよう、子供向けの絵本やビジュアル中心の展示などを工夫いたします。

こちらは展示を回遊する流れをイメージした構成図です。複合施設を展示のハブとし、門司港駅や九州鉄道記念館などをめぐっていただくことで、門司港駅の鉄道史を体感できる構成としています。

それぞれの展示箇所には共通のマークや QR コードを設け、鉄道史をめぐる鉄道ロードとして位置づけていきます。マークは今後デザインコンペなども視野に入れて検討を進めていく予定でございます。

次の資料です。複合公共施設内の展示計画をご説明いたします。施設内では、敷地内で発掘された機関車庫及び発掘された遺構の技術にフォーカスした展示を行います。

施設への動線をつくるため、②の複合施設内の利便施設では、鉄道遺構をモチーフとした内装デザインで、SNS 映えを意識し、市民の皆様や観光客を広く誘導いたします。

利便施設から展示コーナーまで人の流れを誘導する③の壁面展示を設けます。壁面展示では、門司港の歴史などグラフィックなどで解説し、展示コーナーへ興味を促します。

次の資料でございます。展示コーナーでは実際に発掘された遺構や出土品を活用し、AR や映像なども組み合わせて、そこに何があったのかを体験的に理解できる展示としています。図書館では発掘に関する詳細資料や子供向けの絵本などを通じて、幅広い世代が学べるコーナーといたします。

次の資料です。発掘された遺構をどのように展示するのか、床上展示案と床下展示案を作成しておりますので、イメージをご説明いたします。

最初に床下展示案でございます。発掘された遺構を床下に展示する案でございます。ガラス越しに遺構をのぞき込むことで臨場感を待たせる構成を想定しております。こちらの展示のメリットは実際の状態により近い形を見学できることと考えております。

次の資料です。次に床上展示案です。こちらは遺構を床上に展示するパターンでございます。実際の形状や質感を間近に感じられるようになっており、よりインパクトを与えることができると考えております。また、特徴的な断面を床下展示案よりわかりやすくご覧いただいただけれることも、この展示手法のメリットであると考えております。

床下案床上案それぞれにメリットがありますので、是非皆様のご意見をお伺いできればと考えております。

最後に今後の展望について、少し補足させていただきます。

本展示は単なる遺構の保存公開にとどまらず、地域全体と繋がりながら街の価値を未来へと高めていくことを目指します。

今後は関係部局や地元関係者と連携しながら、より具体的な展示設計や訪れる人が街を自然に回遊できる動線の検討、さらにはデザインコンペや情報発信の仕組みづくりなども取り組んでいきたいと考えております。

また、地域の子どもたちや市民の皆様にとって、自分たちの街の歴史を知る場になるよう、教育や地域振興の視点も大切にしていきたいと考えております。以上で資料の説明を終わります。

(南座長)

それでは、意見交換に入ってまいりたいと思います。冒頭で事務局の部長の方からお話がありましたように、皆様方から忌憚のないご意見を自由な観点からい

ただければと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ご質問がある場合も合わせて、この場でご質問いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まず初めに、永尾さん、コメントをお願いいたします。

(永尾委員)

二点、とりあえず感じたことを申し上げますが、ストーリーでつなぐ空間のところ、門司港駅で模型や写真と書かれているんですが、この模型っていうのはどのレベルのものになるのか。それこそ旧門司駅の遺構とどう関係しているのか、ちょっとこの辺りが、模型がどういったものをイメージしているのか分かりにくかったので、教えていただきたいというのが一点。

それからもう一点はですね、遺構の床下展示案及び床上展示案とも関係してくるんですが、壁面にですね。レンガ石積みの壁紙なんですかね。壁面。

(事務局(事業推進課))

基本、壁紙です。

(永尾委員)

壁紙ですね。

これを拝見した時に、その前に参考に出されております、複合公共施設内展示のところで、壁面展示ですね。トヨタの産業技術記念館のなんかが参考で出されているんですが、これと比較して思ったんですけどね。床下展示案と床上展示案の壁紙が、私は専門ではないので、にわか仕込みでしかないのですが、間違っていたら訂正いただきたいんですが、この壁紙のレンガ積みが、どうも横手積みになっているんじゃないかなと思います。遺構の床下とか床上ですね、資料の6と7。トヨタのほうを見ると、これはイギリス積みだと思います。

当時のレンガの積み方とすれば、フランス積みも入っていたようです。

田川の石炭資料館の横に大きな煙突が2本ありますけれども、一本はフランス積みで、もう一本がイギリス積みということなんですが、その時聞いたんですが、日本ではフランス積みからイギリス積みが変わったと。イギリス積みのほうが、堅牢だというようなこと。必ずしもそうではないという意見もありそうなんですけども、まあそういうことで。

それで、例えばですね、市の指定文化財になっております、八幡東区の茶屋町橋梁。茶屋町橋梁は九州鉄道ですね。

それから、実は私が住んでおります行橋の今川に橋梁があります。これは、まだ日豊本線で使われているものですが、この橋梁もともにイギリス積みなんです

よ。

ですから、ここで壁紙を使うにしても、旧門司港駅ができた当時のレンガの積み方とすれば、イギリス積みの壁紙にしたほうがいいんじゃないかと。

その時代性というものを正確に伝える。もちろん雰囲気だけじゃなくてですね。実際に分かるのであれば、そこを忠実にやっていただいたほうがいいんじゃないかなと。トヨタの方を見たときに、ちゃんとイギリス積みになっていましたから。

（門司港には）長手積みっていうんですか。その壁紙がどうも使われているようですので、そこは正確にしていなければなという具合に思っております。

全体に関してなんですけども、展示の目的・対象の明確化というところでお話しましたけども、その時代性・史実をより正確に表現していただけないか。だから何かを使うときには、ちゃんと検証したうえで、写真等いろいろとあると思いますので、そういったものを参考にして、ちゃんと雰囲気だけではなくて、より史実に正確にというところを考えていただければということをおもいました。以上です。

（南座長）

はい、ありがとうございます。それでは事務局より、回答コメントの方をお願いします。

（事務局（事業推進課））

はい。まず模型の大きさがどのレベルなのかということですが、置く場所などによって大きさが変わってくるかと思えます。ただ旧門司駅が、昔どのような街だったかということを模型で表現していきたいとは考えております。場所によって大きさが変わってくるかと思えますので、その検討はしていきたいと考えております。

続きまして、壁紙の色は、まだ決まっていないというところではございます。

（事務局（文化企画課））

永尾さんからのご意見ありがとうございます。

壁紙等は、あくまでイメージということです。また積みについて、九州鉄道記念館自体も部位によって積み方が変わっているところもあるので、そういうものを参考にしたいと思えます。

今回の機関車庫のレンガは、7段程度が最大で残っていたと記憶するんですが、その部分も建物基礎の部分のみでございまして、全体のレンガ積みについては、また推測も入ろうかと思えます。

そのようなところも含めて、いただいたご意見などを参考に、壁の表現意匠な

どについても考えていきたいと考えております。

（南座長）

はい、ありがとうございます。永尾さん、よろしいですか。

（永尾委員）

はい、ということですね、門司港界限、ここがメインにはなるんですけども、やはり門司港駅の重要性ということで、九州鉄道学習施設のそういったものの規定にもなっているということを考えればですね、壁紙、これを使うのであれば、さっき申し上げたような茶屋町橋梁だとか、今川の陸橋だとか、こういったものも合わせてですね。

大きく必要ないと思うんですけども、積み方の説明も付け加えれば、分かりやすくなるのではないかと、そういう思いがありましたので。できれば、もう少し広い範囲のところで、うまく使えるような材料があれば、ここにいかしていただきたいということです。

（南座長）

ありがとうございます。

それでは次に、オンラインでご参加いただいています小野田さんの方から、ご意見をいただきたいと思います。小野田さん、よろしくお願いします。

（小野田委員）

今のお話聞いて、本質的な価値をどこに見出すかというところが、ポイントだと思うんですけども。門司港遺跡の価値がどこにあるのかっていうのを、まずはっきりさせて、とにかく何でも展示すればいいというわけではない。この遺跡の特徴的な部分をうまく取り出して展示、解説ができればと思います。先ほどは壁紙の話が出ましたが、レンガ積みは、九州鉄道記念館はフランス積みでできていて。どのレンガ積みを選ぶかは難しいところですが、少なくとも九州鉄道記念館はフランス積みです。その辺を意識しながら展示するといいなと思います。もう一つは、床面です。床面展示もあるんですけど、床面に発掘した遺構が、ここにこうあったという表示ができるといいのかなと思っています。今回の資料の例で、4ページ目真ん中辺の右側に JR 四ツ谷駅の遺構の展示の絵が出ているんですけども、壁面は展示をパネルで説明しているんですけども、床面のところに、実は当時の四ツ谷の、明治時代半ばぐらいにちょうど鉄道が開通したころの地図が床に貼ってあるんですね。これによって、昔この辺りの外濠は水を湛えていた様子が表わされているので、こうした昔の様子がわかるような床面展示など

を考えていただけたらと思います。

発掘ではいろいろな遺物が出てきたと思うんですが、お茶の土瓶だとか、レンガとか、木だとか、そういった実物をどう見せるか、展示するかというところも一つのポイントかなと思います。

ここでは展示例としてトヨタ産業技術記念館が示されていますがいろいろなところで、いろいろな展示方法をやっているのので、調査いただいて良いところを取り入れていただければいいと思います。

最後に4ページの左側の上に、利便施設ということで、「利便施設の内装デザインは鉄道遺構をモチーフにする」と書かれてるんですけども、この辺を具体的に考えてるのか教えていただければと思います。以上です。

(南座長)

はい、ありがとうございます。では、事務局からお願いします。

(事務局(事業推進課))

まだここが、具体的にというのは決まっていません。鉄道に関するというようなイメージなだけで、内容というのは正直まだ詰まっておられません。いずれにしても、鉄道関連の内装含めモチーフを使っていくというところでございますので、ここは今から勉強させていただきたいと考えております。

(南座長)

利便施設とは何なのかと。

(事務局(事業推進課))

利便施設ですね。どうなるか分からないんですけど、カフェとか、物販とか、人々が休憩できて、カフェなど座って休憩できるようなところ、また物販とかも売られることとかですね。そういうことを考えております。以上でございます。

(小野田委員)

外にも、テーブルとか椅子があるんですけども、これとは別に、いわゆるカフェとか喫茶室的な使い方をするっていうイメージですか？

(事務局(事業推進課))

はい、そのようなイメージを持っております。

(小野田委員)

分かりました。

(南座長)

はい、ありがとうございます。その他、全体に3点ほどコメントいただけてますが、それについて、事務局からもし何かあればお願いします。今の事務局からのご回答は4番目にあったご質問の部分だったかと思うんですけど。その他の部分、もし何かあればお願いします。

(事務局(事業推進課))

何が価値かはっきりさせるとか。ここも今から検討していきたいと思います。特徴的なところというのが、遺構の断面がありますので、そういうところをしっかりと表現できるようなこととかを考えていきたいと思います。

床上案のところで、この上にどのようなものがあるかというところにつきましては、グラフィックとかも考えておりますので、どうやって表現できるのか、またグラフィックでも難しいということであれば、地図なりを壁面に載せたりとか、考えていきたいと思います。先進事例につきましては、前回ご紹介した以外のところも研究していきたいと考えております。

(事務局(都市再生推進部))

先ほど小野田さんから、本質的な価値とはと。まさにここがこの懇話会の肝じゃないかなというふうに私たちは思ってます。私たちの中では、やはり土木技術の粋を極めた遺構の基礎ですね。そこは切り出して展示しようと思うんですけども、それが本質なのか。それからそれ以外にも本質的な部分があるのか。委員の皆様から、そのあたりをお示しいただければ幸いかなと思っています。

それから、床面に地図のような、当時のあったもの、それから現在との重ね合わせという意味では、資料の例えば床上案床下案でも同じなんですけども、右下の方にフロアグラフィック展示という形で、私どもは考えております。

そういうところで、方向性が合致しているのであれば、こういった形で床面に当時の状況でありますとか、それを現在の場所だったら、こういう形に位置していますと、お示しできたらなと思っています。

(南座長)

はい、小野田さん。追加でコメントですとか、あるいは本質的な価値という部分について、小野田さんとしてはどのようにお考えなのかですとか、もし何かありましたらお願いします。

(小野田委員)

本質的価値というのは、難しい言葉で、私も十分理解しているわけではないんですけども、文化財指定の際にはこれがポイントの一つになります。要は、門司港駅の遺跡の特徴、例えば私がほんとに興味深いのは、海岸線の波打ち際に作った構造物ということで、埋め立ての関係が重要だと思うんですが、基礎のところ部分が違っていたというところが、興味深い特徴だと思っています。

そういった専門性の高い遺物を、誰でもわかりやすく説明するためには、どのように表現するかがポイントになるんですけども、遺跡の価値が一般の人にもうまく伝わるように展示できればと思います。以上です。

(南座長)

はい、ありがとうございます。

それでは、続きまして、銭谷さん、お願いします。

(銭谷委員)

銭谷です。第1回の懇話会の委員の意見がまとめられておりますが、この意見に私も賛成しております。ここに書かれてます意見を具現化するため、私からの提案をしたいと思います。

第1に、展示をする場所ですが、喫緊の課題となっております南海トラフ巨大地震の津波に対応する必要があると思います。実際に津波が複合公共施設に到達した場合、1階ロビーでは展示物の流失が考えられます。1階の生涯学習センター予定部分は建物の構造上壁で仕切られており、この部分であれば津波による流出も防げるのではと思います。

第2に生涯学習センター予定部分を展示室とすれば、展示の核心部分である旧門司駅舎の機関車庫があった場所であり、床面に機関車庫の位置を明示することが可能です。

第3に軟弱地盤上に機関車庫を建てざるを得なかったため、明治時代の技術者が用いた近世江戸時代の軟弱地盤克服の木杭と胴木による基礎構造を展示することも可能でしょう。現場写真や木杭と胴木の展示によって、近世と近代の技術の融合を実感することもできるでしょう。もちろん、一部切り取って保存されている胴木とコンクリートの基礎構造の上、レンガが組まれていた部分も同じ元の位置に置くこともできると思います。

第4に軟弱地盤層から出土した古代古墳時代の漁撈用の網の「土製おもり」や須恵器、日本と中国の交易をあらわす白磁や青磁ほか多くの出土物も展示することで、「門司の歴史」の一端を示すことも意義あることでしょう。

第5に、映像による展示コーナーを設置することもできるでしょう。現代技術

による新しい展示の仕方が考えられると思います。

以上の観点から、複合公共施設の1階部分の図書館と生涯学習センターは津波対策上からも別館での対応を再検討していただきたいと思います。

なお、図書館が一部展示の会場として使われるような構想になっておりますが、図書館には、133,000冊の図書が蔵書としてあります。話に聞きますと12,000冊は上の階に置ける書庫ですか、そういうものを設けているという話を伺いましたが、津波が実際に到達した場合には、それでも120,000冊の蔵書が失われる可能性もある。そういったところもありまして、ぜひこの1階部分は、新たな活用ということを、考えていただければ幸いかと思います。以上が私からの提案でございます。

（南座長）

はい、ありがとうございます。事務局よりお願いします。

（事務局（事業推進課））

はい、まず1点目で津波に対する対応でございます。可能な限り、水が浸水しないようにということは考えております。ただ今のこの場で津波に対する対応を、はっきりと申し上げることはできません。ただ人の命とかそういうものに関わるものというものにつきましてはちゃんと災害リスクという形で考えております。

続きまして、（2点目に）生涯学習センターの場所に展示室をすべきということでございます。今現在では複合公共施設の方には図書館や生涯学習センター、区役所、ホールなど複合公共施設を集める政策で進めております。ですので、この場所に、生涯学習センターの場所を全て展示室にということは、現段階ではちょっと難しいと考えております。

続きまして3点目に、明治時代のものと木杭とか胴木とかの展示なんですけど、ここら辺につきましては、どのようなものを展示するのか、4点目の、軟弱地盤にあった出土品とか、それも含めてです。出土品についてどれを展示するのか、これは今から検討いたします。今銭谷様から言われたように、やはり胴木とかは非常に貴重なもので、先ほど小野田様からも話がありましたように、構造的なところとか、そういう特徴的なところを表現すべきというご意見もございました。ですので、その辺も含めてどのように展示ができるのか、今から考えていきたい。

続きまして、映像による展示、ここも考えております。映像で、どのような表現にするのか、まだ映像を作っておりませんので、どのようなものを作るということまでの、この場での話はできませんが、遺構があったところの、映像の記録とかでございます。そういうものを、活用させていただきたいと考えております。

(銭谷委員)

今ご説明がありましたけれども、私が考えるに、この南海トラフ巨大地震の津波のことに關しまして、本当に喫緊の課題だと思います。対策が必要だと思います。そういった中での話ですので、今までとは違うんじゃないか。やはり再検討するところはしていただきたい。

やはり、1 階部分は特に、津波が起きた場合、もし万が一でも到達した場合はやはりそういった被害が出る場所だと思われます。そのためにも、お話いろいろ聞きましたけれども、2 階の方に電源を置いたりとか、それも既に高潮のときに対策を打っているとか、そういった話も聞きましたが、やはり津波の被害が想定される 1 階部分については、やはり対応を考えるべきだと思います。

幸いにも今度の展示する遺構の場所がですね、ちょうど機関車庫に当たるところが、生涯学習センターを予定されている部分であったということですよね。こういった 1 階部分については、やはりもう考えられないと。いや、学習センターと図書館はもう決まったというふうにおっしゃられているようにありますが、やはり再検討していく必要があるんじゃないかと思います。

そして 1 階部分を有効に使用するためにもですね。遺構の展示を、生涯学習センター予定部分が壁の仕切りで囲われるような堅牢な場所であると聞いておりますので、ぜひ再検討をお願いしたい。そういうふうに考えて、提案しているところであります。

ですから今の説明では、やはり十分私の意図するところは含まれていないのかなと思います。もう一度再検討をお願いしたい。

(事務局(都市再生推進部))

補足いたします。銭谷さんのご心配の意見、よくわかります。今のお話は展示云々よりも、人の命であるとか財産、図書館に置いている本であるとか、そういう財産をどう守っていくかだと思っております。

そこに関しましては、今、南海トラフの津波であるとか、浸水の状況、国は発表しておりますけれども、それを県レベルでしっかり、調査分析をし、どういう被害があるのかという前提の下で、しっかり安全な公共施設を私たちは間違いなく整備いたします。

それと、1 階というのはやはりどなたも通る通路ですので、2 階よりも 1 階の方が目につくと。それから誰でも展示に触れるという利点もあります。その中で一番の最善策は何なのかということを改めて私たちの中で考えまして、最終的にお示したいと思っています。銭谷様がおっしゃっている心配事は大変重要なことです。ですので分かりますが、図書館や、生涯学習センターの配置、普段皆さんが使いやすい場所がどこなのか、そして展示で一番目に触れやすい場所はどこなのか、そ

ういうところを総合的に考えたいと思っております。

（銭谷委員）

ありがとうございました。そこに何があったか、遺構展示物がどこにあたるのかを表現するというのは、委員の意見の中に入っております。これからいけば、やはり機関車庫が核心だと思いますけれども、機関車庫があった場所、そこに何があったか、そういったものを展示する、表現する、こういったことが考えられていいのではないかという風に思っておりますので、ぜひ、この点も参考にしていただいて改めて検討していただきたいという風に考えております。

（南座長）

はい、ありがとうございました。

それでは続きまして、内山さん、お願いします。

（内山委員）

内山です。お世話になります。今いろいろお伺いして、前回は、観光案内する立場からっていうふうに申し上げたかと思うんですけど。今回ご説明いただくと、幅広く展示していただいてるご様子で、少し安心した部分があります。

私としては、前回はもうちょっと狭い意味の展示になるのかなというふうに考えておりましたけれど、皆さんの希望をずっと聞いてまいりますと、やっぱりあの遺構の大切さっていうのを広く見たいというのが、多数の意見ですが、こういう建設物を作るとなると、無理な部分も考慮しなければならないかなと思っております。

全体の感じを引き受けるっていうのが可能かどうか、私素人ですので分かりませんが、鉄道記念館の続きが門司駅なので、その辺りの遺構っていうのは、鉄道記念館に併設した展示物として、外側なり、内側にできるのであれば、その場所がここですよという展示でも良いのですが、一部分でも展示できればいいかなというふうに希望として持っておりました。

先ほどもフランス積みだとかイギリス積みだとかありましたけど、鉄道記念館は両方の部分を持っていたかと思うので、壁紙の部分もそういうような形でされていけばいいかと思えます。

質問がございまして、床下展示の場合ですね。西小倉駅前のところにある展示物がどうしても水滴に覆われて中身が見えないというので。今度の場合、建物の中にある場合は、それは水滴を排除するということが可能であるのかどうかということですね。

これは以前お話ししました東北の展示物は、本当にクリアに見える展示で、そ

の遺跡の上に立つってという喜びっていうか、ちょっと感動を覚えましたので、あれは何か実現していただきたいなという感じを持ちました。

門司港駅からのルートとして、にぎわい広場ってというのはちょっと内部の方になるかと思うんですが、利便施設ってというのは、すごくいいなと思ったんですよ。こういう中で、休憩する場所とかカフェとかってというのは観光客にとって一番必要なもので、皆さんが少しでも憩える場所があれば、展示コーナーにも誘導できますし、図書館などの利用にもつながっていくのではないかっていうふうに考えております。

これはぜひしていただきたいことですが、展示の部分で言えば銭谷会長のような、専門的なことは申し上げられないのですが、可能な限り、見える化っていうのをしていただきたいと思ってます。せっかく出てきた展示物ですから、こういう広い場所を取っていただけるのであれば、展示も可能と思うのですが。

東北地方の展示物や、いろんな博物館を拝見してきましたけど、立派ですけども、過剰な音量は、すごいものですよって言いたいのは分かるんですけど、ちょっと邪魔に感じて参りました。その辺も素直に自然に、そして、「わ！すごいな」と思えるものにしていきたいです。

（事務局（事業推進課））

はい、室内ですので湿度管理は対応可能と思います。水滴がつかないようにとか、汚れを落としていくことも対応可能かと考えております。

（事務局（文化企画課））

補足いたします。ご指摘の西小倉大門の展示。あそこはもう完全に地下ということになっておりまして。下からの水も上がってくれば、土が露出しているので、展示のガラス面を通して入ってきた日光で、また植物が繁茂するようなこともありました。

今回建物内、そして地下からの湿気の上がり等も十分コントロールできると聞いているので、湿気で全然展示が見えないという、そういう懸念は避けられるかなと考えております。

（内山委員）

床下に展示というのもいい方法だなっていう感じを持ったのと、それから歴史が3段階に分かれてるところがありますね。明治大正昭和と。その部分が同じような展示ではなくて、外でどん！と目に触れる位置で、「すごい。この3時代の遺構がこういうふうになってるのか」っていうことも、観光客には驚きを感じさせるものだと思いますので。ぜひこれは手に取れないでまでも、そういう感じの展

示の仕方をしていただきたいと思います。

（南座長）

ありがとうございます。それでは次に、松本さんお願いします。

（松本委員）

鉄道記念館の松本です。よろしくお願いします。

今までいろんなご意見も出ておりましたけれども、だいぶ検討は進められておるんだなという感想をもっております。例えば、いくつか話が出た中で言いますと、壁紙のパターンでは、フランス積み・イギリス積みいろいろあるんでしょうけれども、それをきちんと表現した壁紙の選択をしていただければいいのかなと思います。こういうレンガの積み方がありますということを知ることは、壁を見るだけでも学習になると思いますので。

単なるイメージイラストではそこまで表現がされてないんだと思うんですけども、レンガ積み風というだけじゃなくて、それがイギリス積み・フランス積みといったものがあるということ、壁面からも学習できるような、これも展示の立派な一つだと思いますので、そのような表現ができてればよろしいなという感想です。

遺構を切り出したものっていうのは、今回の展示のハイライトだと思うんですけども床下案・床上案と提示されてるっていうのは、どちらとも決めかねてらっしゃるんだろうなとは想像します。どちらも善し悪しあるんだと思います。床下案では、地上よりもこれだけ深い位置に先人たちの苦労が残っていると。そういう時代の変遷の変化をリアルに感じ取れる実態感は表現できるメリットはあるのかなと思います。

もう一つの床上案であれば、構造を目の高さで体感できる表現の仕方になるのかなと思いますので。どちらも一長一短というか、どちらもありなのかなとは思いますが、個人的に言えばやっぱり床下案は本当のリアル感が伝えられるのかなという感想ではあります。これはいろいろ工事の中で、これから検討されていくところかなと感じております。

そういう展示の仕方を、これからまた工夫されるんでしょうけれども、資料の3ページにありますようなストーリーということで、先ほどのような展示がしっかり工夫された複合公共施設を中心として、門司港という地域をもっと楽しんでもいただくために、このようなラインで繋いで、駅から始まるのかもしれませんが、記念館から始まるのか、どちらから始まっても構いませんけれども、それだけじゃなくて、もっと地域に広がるようなルートっていうのが表現できるのがもう一つ面白みではないかという感じもします。

前回の会議では、栄町の空き店舗をうまく使って何か表現できませんかという
ような提案も聞いたように思いますし、駅と記念館、その間にある複合公共施設
で終わらせるのももったいないのかなと思います。

それらをつないだ上で門司港という地域を感じていただくルートづくりです。
この資料で言うと、ストーリーを作って 観光客の方、もちろん市民の方にも提
示できるような工夫をもうひとひねりやっていたらいいのかなと思います。

大まかな説明になりましたけど、そんな感想を感じました。

(南座長)

ありがとうございます。事務局お願いします。

(事務局（事業推進課）)

はい、先ほど壁紙のパターンのお話がありました。学習できるというところ
も含めて検討していきたいと思っております。

ストーリーについて、地域に広がるようなルートということでございます。そ
の辺も、今から、地域の方々や関係者と話をしながら、どのような広がりとして
持っていけるのか研究してまいりたいと思っております。

(南座長)

ありがとうございます。それでは、小石さんの代理の田原さんお願いします

(小石委員（代理：田原事務局長）)

北九州観光コンベンション協会の田原でございます。本日は懇話会構成員であ
ります専務理事が、別件で出席できないということで大変申し訳ありません。私
が代理で参加させていただきまして、観光の視点から意見を述べさせていただきます。

先ほど、事務局の方から、展示の目的とか、方向性について、説明をお聞きし
まして、前回のこの懇話会での意見をしっかり受け止めて、案に落とし込んでい
ただいたというふうに感じております。

まず目的におきまして、門司港地区の歴史、文化、産業、当時の人々の暮らし
などに思いを馳せることができるということがありますけれども、観光の視点か
ら、人々が知らない土地を訪れて「感じたい。触れたい。」っていうのがまさ
に、その土地の歴史や風土、文化や産業、人々の暮らしといったところでござい
ます。それらを次世代へ継承していくことで、その地域の誇りとして、また観光
資源として、先々まで行かされていくことになるというふうに考えております。

また、門司港駅での展示に始まりまして、複合公共施設をハブとして、周辺施

設とも連携した展示をストーリーで繋ぐ空間、また分かりやすい展示を追求した見せるデザイン×デジタルなどのコンセプトも、第1回目の意見が反映されており、魅力を感じております。

具体的な複合公共施設内の展示案につきましては、一つは入り口のところで、鉄道をモチーフにした内装デザイン、そして門司港地区の歴史から入って、ダイジェストの大型マルチ映像で遺構関連に導入するという。それと遺構や出土品につきまして、実物そのものの展示に加えて模型や映像、ARやQRなどデジタル技術も活用して、そこに何があったかを表現するという。また、遺構展示と映像を組み合わせた演出と。そういったところが、入りやすい・親しみやすい、分かりやすい展示にしたいという工夫がこらされた案だというふうに感じました。

まとめますと、この施設を訪れた多くの方が、門司港が九州の鉄道の起点であり、本州と九州をつなぐ結節点であるのみならず、国際航路によって、海外とのノードとしても、発展してきた歴史があることに触れ、この地で、どんな産業が起こって、人々がどんな生活をして、どんな文化が、風土はというふうに思いは馳せて、ワクワクしながら、門司港全体へ、足を運んでいただけるような、そんな地域の誇りとなり、また観光の入り口の役割を担う施設、観光資源となってもraitたいと思っております。

(南座長)

はい、ありがとうございます。事務局お願いします。

(事務局(事業推進課))

はい、ありがとうございます。観光資源としても魅力あるものだと思っております。市内の方もそうなんですけれど、市外で門司の土地を知らない方、初めて触れる空気感というか、そういう、魅力ある施設として表現していきたいと思えます。

(南座長)

ありがとうございます。それでは次に一ノ瀬さんお願いします。

(一ノ瀬委員)

失礼します。一ノ瀬歩美です。たくさんの今専門的な内容が出た中で、私からはこの門司港の魅力ある観光資源として、市内外問わずに多くの方に情報発信をする。その次世代に継承していくことを目指した展示というところから、今後どのように発信していくかという視点で見た時に、この施設内で疑問にというか、

ちょっと感じたことをお話しさせていただけたらと思います。

私は、小学校にちょっと勤務してたこともあって、子供たち、自分の住んでるまちをやっぱり知りたいとかっていう気持ちはすごく強くて。その「知りたい」になる前に、楽しいというか、興味を持つということがまず大事だから、どれだけ、全く知らないゼロ知識の中で、「ここに行きたい。こんなのがあるんだ。」というふうに、惹きつけるものが大切かなと思ひまして。

資料の中にもインスタ映えという言葉が使われていたり。利便施設ですね、周りに発信して、全く興味がない人たちからも、そこを見て面白そう、こういうところがあるんだというように、見て、まず興味を引くポイントが大切だなと思ったんですけど。

この利便施設というのは、展示案の中では、この右端のこの椅子のスペースのところになるんですかね。

（事務局（事業推進課））

そうです。

（南座長）

ちょっといいですか。多分違うと思いますけれども。この右端の椅子が机の六つ並んでるところが一ノ瀬さんがおっしゃったところだと思います。ちょっと違いますよね。

（事務局（事業推進課））

壁面で表現してる場所はここからここまで（③）を表現しておりました。利便施設というのはここでございます。（図で説明）

（一ノ瀬委員）

また別なんですね。この利便施設でのインスタ映えと書いてるんですけど、この発信の仕方というか、本当にここでどう興味を惹くかによって、若い世代とか全く知らない人たちの、まず興味を引くポイントにもなると思うので、この利便施設での今後の使い方が大切というか、面白くなるかなと感じたところではあります。

QR で読み取って、資料の施設や内容だったりとか、QR で読み取るということとは、そこの展示に書いてないことが携帯で見れるということなのか、例えば音声とかでも外国人観光客向けとかに説明ができるような、読み取ったら聞けるというふうになるのか。この QR というのがちょっと分からなかったので教えてもらいたい。特に小っちゃい子とか見るだけ、ちょっと難しいこと書いてただけで

終わってしまうと、やっぱりもったいないなというところがあるので、いかにその幅広い世代に対応して、楽しめるかというのも大事なかなと思って、その図書館の利用もすごくいいな、子供向けの本とかもいいかなって思ったんですけど、その前の段階でこの展示品とかがある中で、どういうふうに伝えていくか、興味を持たせるかっていうところも、その展示品の発信の仕方も大切になるんじゃないかなと感じました。

この施設の中では、基本、写真動画とかは撮っていいっていう形になるんですかね。その中で、楽しいとか、こんなのがあるとか、面白いっていうのは、大体みんな携帯とかで、それこそ本当にインスタとかで、北九州観光とかで見た時に出てきて、こういうの面白いなって引きつけることが、知識の無い人達からしたら第一ポイントにはなると思うので。そこをどれだけ引きつけるものがその若い世代にとっても必要かなと思うので、子供向けの絵本だけではちょっと難しいところがあるのかなと感じたんですけど、その他にも何か案があれば聞きたいなっていうところもあります。

ここの利便施設がどのようなになるのかなとは私の中で思ったところで、今後検討中でと先ほど言われていたので、そこも深めていけたらなと思いました。

(南座長)

はい、ありがとうございます。事務局お願いします。

(事務局(事業推進課))

まず利便施設につきましては先ほど申しましたように、ただいま検討中でございます。興味を引くには、まず導入口が大事だというご意見ですね。工夫していきたいと考えております。

続きまして、QRで読み取って、その文が詳しい説明になるのかどうかという点について、ここも色々なパターンが考えられます。より詳しくする方法とか、音声で聞くとか、読むのが面倒くさいという方もいると思います。音にしたらずっと頭に入ってくるとか、そのような方たちもいようかと思います。どこまでできるかは今後検討していかないといけないと思いますが、外国人の方にも詳しく知っていただきたいという観点でも考えていきたいと思っております。

続きまして、写真や動画がオッケーかというところでですね。当然、SNSなどで、若い方とかにSNS映えするような形で撮って、色々と情報発信していただいて、どんどん人が集まっていく、そういうふうにしていきたいと考えております。

(一ノ瀬委員)

ありがとうございました。

(南座長)

はい、ありがとうございます。それに関連してなんですが、一ノ瀬さんのご質問の中に含まれるものとして、利便施設じゃなくて、あそこの椅子と机が並んでる場所、あそこをどう活用するのかっていうあたりも、もしお考えがあればというご趣旨であったんじゃないかなと思いますので、それをお願いします。

(事務局（事業推進課）)

基本設計の中では、ここは市民ロビーというような形、休憩できる場所でございます。

壁面も含めた形で、このロビーのところも何かしら活用ができれば、そこに案内やQRも置いたり等、考えていきたいと思っております。現段階ではの案はございません。

(南座長)

おそらくここも、漫然と机と椅子を置くとどういう使われ方をされるかという部分もあったりしますので、そういった部分もしっかり詰めて考えていただければといったご質問のポイントになるというふうに思いますね。

(事務局（事業推進課）)

分かりました。

(南座長)

それでは、あと本日ご欠席の山田さんと足達さんから事前にコメントをいただいていると事務局から伺っていますので、まず山田さんのコメントの方をお願いします。

(事務局（事業推進課）)

はい、山田様の意見でございます。ご紹介させていただきます。

最初に懇話会を欠席となりましたこと誠にお詫び申し上げます。展示方策に関する方針を踏まえ、下記のような点で検討いたしましたので、コメントとして挙げさせていただきます。

旧門司駅に関する地域の歴史的な資産に関し、最大限の範囲で保存並びに展示する方針に関しましては、現時点で同意しております。

その一方でその価値を知る人間が誰かという点、それは我々大人であったり、その分野にご知見をお持ちの方であったりと、誰かれ構わず共感できる内容ではないことも同時に感じております。

将来にわたって税金を納めて施設の保存に貢献いただく、次世代の理解を得なければ、他の地域の遺構と同様に数十年後に解体されてしまう恐れがございます。知らない興味のない無知層、無関心層を一人でも多く関心層へ変えていき、地域一体として文化的価値の発信が行えるような将来像を拡散していくこと、画策していくことはいかがでしょうか。

施設計画、展示計画に段階的な働きかけを施すことも有用と考えております。

①気づきを与え何があるか知ってもらう。

展示への視覚的、物理的接点を増やし、他の目的で訪れ、ただ通り過ぎていくだけの訪問者に展示があることを認識させることが大事です。例として図書館で来た人にも見える配置計画、ロータリーやにぎわい広場を歩く、建物に入って来ない人たちからの見え方への配慮、門司港駅から続くアプローチ空間に行く鉄道遺構を前面に打ち出した外構展示など。

②動機付けを行い、展示施設があることのメリット、特色を知ってもらう。

他の都市にはないものである、あるいは歴史的にも貴重な資産であり門司港エリアの特別さに繋がっている、などの情報を発信することと思いますが、貴重さを理解しようとして、皆がきちんと立ち止まって大量の資料や文章を読んでくれることは考えにくい状況です。一つ一つの展示内容に関する対応ということではなく、その前に、まずは展示空間全体が関連遺構のブランディングに寄与するようなデザインイメージを持つことを目指すのはどうでしょうか。例として、奥の利便施設だけを飾るのではなく、ロビーからエレベーターホール、郷土コーナーに続く一帯を、遺構に関わる装いをもつものとして計画する、など。まだ実感の湧かない若い学生や子どもたちに、展示空間のアイディアを広く募るのも良いきっかけになるかもしれません。彼らも、展示物自体の内容は何も分かっていない状況と思います。

③地域、門司港エリアの一員であることを認識してもらう。

本施設だけで完結するのではなく、周辺施設と連動してコンテンツを打ち出していくことが有用と考えます。例として、近隣の門司駅、門司港、鉄道記念館、関門海峡ミュージアムといった観光のコア施設と連動した巡回企画など。また、本施設は鹿児島本線ターミナルとして鉄道利用客を迎え入れる場所に建つため、車両内から見える外観デザインは門司港駅と共に最初に見える地域の顔となります。駐車場含め特にレトロに関して配慮する箇所と思われます。

④情報発信者、スポークスマンになってもらう。

SNS 等での情報発信には写真や動画に残せるヴィジュアルイメージが重要で、かつ使い捨てに近く、さらには短い頻度で更新が必要になります。一度設営したらずっと変わらない展示施設には関係者しか足を運ばない可能性が出てきますので、変化のある媒体として運営することを検討してもらいたいです。例として、映像系コンテンツは季節ごとに入れ替わる、地域イベントに連動して仮設展示が現れる、地元の子どもたちを交えて体験プログラムを実施する、など。子供向けのショー等もわざわざ会期の前半後半でストーリーを入れ替えたりしていますので、もう一度来させる、次来たら何があるのか、と思わせる運用も同時にご検討いただければと思います。

貴重な遺構をどのように扱うのかという点において、出来ないかもしれないけどやってみたい、という項目を並べていけば最適解が見えてくると考えております。ご参考になりましたら幸いです。

(南座長)

ありがとうございます。今の山田さんのコメントに対して、何か事務局としてのコメントというのは何かあるでしょうか。

(事務局（事業推進課）)

まず一番最初に気づきを与え、何があるか知ってもらうということですね。先ほどの話でもございます。やっぱり導入口でどういうものがあるのかということを知ってもらうことが必要だと思っておりますので、この点につきましては工夫をしていきたいと思っております。また動機付けで展示施設があることのメリット特色などを考えていながら、今回展示のイメージ案を出させていただきました。

続きまして、地域の方に門司エリアの一員であることを認識してもらうにつきましては、地域の方々にも来てもらうという点でも、地域振興という観点から今後話をしていけないといけないと思っておりますので、そこら辺についても検討していきたいと考えております。

情報発信者、スポークスマンなってもらうなど、ビジュアルも大事にしていきながら興味を持ってもらうように、SNS とかで発信してもらう。また小さなお子様達に何回来ても楽しいと思ってもらえるような工夫を考えていきます。以上でございます。

(南座長)

ありがとうございます。

それでは、続きまして足達さんからのご意見についてご紹介ください。

(事務局(事業推進課))

足達様からのご意見でございます。

鉄道遺構の展示についてでございます。

- ①床下にあるほうが、気になって「これは何だ」と覗くような気がする。
 - ②遺構そのものの展示の位置だが、曲がらずに見ることができるほうがいいのではないか。今のままだと、どこからも見えないのでは。また、手前にあることで、あれは何だろうとなるのではないか。
 - ③車いすの人もしっかりと見える位置に展示してほしい。立っている人は見えるけど、車いすの人からは全然見えないということもあると聞いたことがある。
- 続きまして、利便施設についてでございます。

- ①写真を撮るとき、照明を気にする。明るいほうが、物がきれいに映る。
- ②利便施設から展示コーナーまでの全体がどのようなになっているのか想像ができない。全体がどうなっているのかを見てみたい。
- ③利便施設の目の前にトロッコの駐車場があるのであれば、利便施設のデザインを駅みたいにするのは面白そう。メニューも切符みたいなデザインにして、店員さんも駅員みたいな恰好だったら、より面白そう。
- ④利便施設に、「北九州ぶらりカード」のようなものがあってもいいのではないか。マップとか、音声案内とかが裏面にあると便利。

続きまして、利便施設から展示コーナーまでについてでございます。

- ①壁面展示だが、壁紙を昔の門司のまちとか風景とかの写真にしたらどうか。まち全体がどんな雰囲気だったかとか伝わるのではないか。
- ②壁面展示もそうだが、説明は長くなるか。若い人はワンセンテンスが限界だと思う。ハローキティ展に行ったが、説明が長くて、若い人はほとんど読んでいなかった。
- ③展示コーナーへ誘導する仕組みとして、床に線路を書いてみるのはどうか。子どもは面白がってたどっていきそう。

その他といたしまして、

- ①郷土コーナーとか、図書館の本棚が汽車の車窓モチーフになっていてもいいのでは。興味がひかれる気がする。
- ②門司港駅から施設へ人が流れるか疑問。門司港駅から施設まで、足跡をプリントするとか、人が流れる仕掛けがあってもいいのでは。

以上でございます。

(南座長)

ありがとうございます。今の足達さんのご意見に関して、事務局から何かコメントあればお願いします。

(事務局(事業推進課))

まず車椅子の人もちゃんと見えるようにというところで、これは色々な人、説明が上に展示してあって車椅子の人には見えないと、私もそのような展示があるということは聞いております。そのような点も含めて考えていきたいと思っております。

また、子供さんとかに対し、床に線路を書いたりとか、遊び心的なところで誘導していく、これも一つの方法だなと改めて思いました。足達様も最初から説明は短くとおっしゃっておりました。その辺をいかに工夫して表現していくのか今後の課題と考えております。

(南座長)

ありがとうございます。

(事務局(文化企画課))

今皆様のご意見聞かせていただきまして、全体的に文化財の担当としての受け止めをお答えさせていただきたいと思えます。

本質的価値を伝えていくことは、本来重要なことで我々も受け止めておりますけれども、やはり興味のない方、また若い方や子供たちにも伝えていかないとけないというのは我々もしっかり受け止めております。

例えば、世界遺産だとか、日本遺産も我々の課で担当しておりますけども、やはり子供さんにお伝えする時、例えばクイズをやってみたりすると、そこを参加型にすると、自分たちの事として捉えてくれるっていうようなところもありますし、小野田様からもやはり他都市の事例を少し勉強してみるのも大事だというようなご意見もございましたけども、他都市の、確か高輪の事例で、カメラをかざすとARで画像が出てきて一緒に写真が撮れるといったような仕組みも我々見しております。

横浜の事例ですと、こう切り出しているけども、グランドレベルがその当時でちゃんと分かるように見えているような展示の仕方というのもございましたので、他都市の事例も見ながら、より分かりやすく伝わりやすい展示、また興味を持っていただくような展示にしていけることが大事だなと思っているところでございます。

(南座長)

ありがとうございます。

それでこの後も追加でご発言がある場合は、また承りたいと思いますので、私の方からも少し簡単にコメントさせていただきたいと思えます。

資料の 2 ページ目 3 ページ目あたり、目的ですとかストーリーでつなぐ空間というあたりですね。この辺り 1 回目の議論を踏まえて、分かりやすくまとめているというふうに思います。この中でも読み取れる部分があるんですが、今回の我々の懇話会で検討している場所というのは、あくまできっかけの場所ということなのかなと思っています。

スペースがどうしても限られていますし、専門施設ではないということもありますので、全てを詰め込んでいくというのは難しいというふうに思います。他の構成員の方からもご発言がありましたように、他の施設で、特に JR 九州さん、九州鉄道記念館及びその所管している市役所の担当部局、それから、地元の施設などと調整をして、地域を人々が周遊するような、その拠点というようなことで機能するというので、場合によっては物を絞り込むということもあり得るのかなと思います。

あるいは門司港エリアに限らず、特に本物をいかに見せていくかという意味では、いのちのたび博物館ですとか、それから、埋蔵文化財を今後新たに見せていくような場所ですとか、そういったようなところとの連携ということも十分検討していく余地があるのかなというふうに思います。

それと関連するんですけれども、特に何をここで見せるかということで、床下展示をした場合に、ここは比較的、湿度の管理もしやすいといったお話もあったりはしましたが、おそらく文化財のレベルで求められる湿度の管理だとか、あるいは光の管理っていうのは、おそらく一般的な事務所スペースとか、図書館だとかそういうところで求められているものとちょっとレベル感が違う可能性もありますし、多目的に使える椅子とか机が描いてあるところの壁側がガラスなのか壁なのか分かりませんが、例えば、あそこは窓だとするとその辺りの光の関係、温度の関係っていうのはかなり難しい部分があると思いますので、そのあたりも十分考えていかないといけません。

あと南海トラフ地震のお話がありました。私の理解では、事務局の方からお話がありましたが、今後県から被害想定が出されて、その後、おそらく地域でも人をどう避難させるか、あるいは物を避難させるかというお話があるというふうに思います。私の理解では、津波の避難というのは、高さもそうですけれども、到達時間を考慮してですね、今回一般的には、おそらく門司港エリアは地震発生後 3 時間程度後に来ると言われていると理解しています。その間に人は逃げる余地がある。もちろん地震動の大きさにもよりますが、地震動については、おそらく震度 4 ですとか、震度 5 弱、震度 5 強といったようなあたりであって、震度 5 強ぐらいであれば、建物自体が倒壊するということはおそらく考えづらいという状況だと思います。そういった中で、物を避難させる時間というのはある程度あるかもしれない。もちろん人が逃げるのが一番大切なわけですが

れども、それを考えた場合に、場合によっては床下ではなくて、床上に置いておけば、海岸線の際につくったということが分かる、切り出している部分、あれはその到達する 3 時間よりも前に、安全な場所に移動させることができるかもしれない。おそらく床下に設置すると相当難しいと思いますが、床上だったら移動させる可能性っていうのはあり得るかもしれないというふうに素人考えながら思うところもありますので、そういった部分も含めて、もちろんそれ以外の展示物も、特に発掘された本物が展示される場合はそれをどう避難させるのか。もちろん人の命が最優先ですので、浸かっても後でまた再現できるようなものであれば、それはそのままでもいいと思うんですけども、本物をこの場所に展示するのであれば、それをどう避難させるのかというあたりの計画は立ててもらうのは一つありなのかなと思います。そう考えると床上の方が場合によってはいいのかもしれない。

最後に一つ、これは構成員の皆様方のご意見を伺うと、空間の使い方をしっかり細部に至るまで考えていただきたいです。あと床から壁に至るまでを安易に既製品を使うということはやめていただいて、もちろんそれによってコストは高くなると思いますけれども、今回まとめていただいている目的の部分に十分資するようなものをしっかり使っていただく、あるいはその空間の配置も考えていただく。インスタ映えする場所を作るのであれば、結局照明は明るくすると、展示の見やすさ等とある意味相反する部分があったりしますので、その辺りの空間の使い方というのも工夫して考えていく。特に展示の仕方もそうでしょうし、あと他の人が映り込みやすいか、映り込みにくいとか、その辺の動線の問題もあってりすると思いますので、その辺りの細部にわたる検討を是非、段階に応じて進めていただければなというところでございます。

私からのコメントとしては以上となります。もし事務局から何かございましたらお願いします。

(事務局(事業推進課))

ありがとうございます。先ほどの床下の管理の件でございます。確かに管理面ではかなりレベル感が求められるかと思えます。この点は再度確認させていただきたいと思えます。

続きまして、ロビーのあたりの外側の壁は、基本的にはガラスでございます。光をどのレベルまで入れるのか、全くクリアにしないといけないのか、建物全体を見ながら考えていきたいと思っております。

続きまして津波の関係につきましては、座長のおっしゃるとおりでございます。ある程度の時間で到達するということでございます。この対応は、基本的には私ども、まずは人の命ということで、人を避難させる、これを第 1 に考えておりま

す。このような中で、物をどこまで上に持っていけるのか、時間的な余裕の観点から、関係者の方とも話をさせていただきたいんですが、遺構そのものを上に持ってあげるとするのは無理でございます。何トンともあるものですので。そのような中で、大事なものを上に持っていけるのかどうか、関係者と考えていきたいと思います。

最後にまとめていただいた意見の中で、空間の使い方、床から壁に向けてどのように表現できるのか、細かいところまでちゃんと考えて表現していきたいと考えております。

（南座長）

ありがとうございます。では錢谷さんお願いします。

（錢谷委員）

今座長の方からお話があったんですけども、このロビー案で、これ以外考えられないような感じのお話だったように受け止めたんですが、このロビー案で本当にいいのかっていうことは私は疑問です。

本当にこの空間でこの貴重な大規模な遺構を本当に表されたわけじゃないと思うんです。今回発掘された遺構というのは大規模であります。大変な遺構であります。そういった遺構を表すので、こういった提示案の壁面利用とか一部の切り出した分だけを置いておくだけで、それで済むとかそういった遺構ではなかったと思います。残念ながらですね、この遺構は現在全てありません。ほとんどなくなっております。見ることは今からはもうないと思います。

ですから余計にこれ程大事な遺構であったこと、機関車庫を含む駅の関連遺構、そして軟弱地盤から出た貴重な出土品。こういったものを本当に見てもらうこと、そこにあったところで見ってもらう。そういった努力が必要だと思います。

ですから、今のそのロビー案だけに限定するのではなくて、是非その展示の仕方についても、場所においても、再度当局案だけではなくて、生涯学習センターの予定のところを使うとか、まだ他にもあればそういったことが考えられることは検討した方がいいと思います。

できる限り遺構があった場所、遺構があったところに、その展示物があるというのが一番望ましいと思いますので、当局の再度検討をお願いしたい。というのを私の意見とします。

（南座長）

ありがとうございます。

第1回目の時にもお話があったように、今回の懇話会というのは、何か懇話会と

して意見を一つに集約して、それを市に答申するという位置づけのものではなくて、各構成員がそれぞれの立場からお考えになっておられるご意見を市の方に提示をするという場でございます。

そういった意味では銭谷様のご発言も、私の今述べたことも、全く並列のものとして市の方で受け止めて、もちろん他の構成員の皆様方のご意見もそうだけれども、市の方で検討していくというふうに理解しておりますので、当然、銭谷様のご意見というのもまた今後市の方で検討が行われるというふうに理解しております。

その他構成員の皆様からご意見ご質問等ございましたらお願いします。永尾さん、お願いします。

(永尾委員)

先ほどかなり展示の具体的なところまで、明るさのことだとか、かなり踏み込んだご意見も出始めているので、ちょっと気になったところもありますけども、明るくというのは結構なんですけども、やはり時代的なことを考慮すればこの門司港駅ができたときの光源というものを私は考えるべきではないかなと。

でもそれがせっかく周辺の壁紙だとか、あるいはそれ以外のグラフィックを工夫しても、光源が現在の例えば LED を使ってしまうと、雰囲気はおそらく私は台無しだろうと思います。

やはり当時の光源を考えた色合いだとか、あるいは明るさだとかそういったことがやはり重要だと思う。当然今よりも暗いという感じであろうと思うんですけども、それを暗いと感じさせない展示方法というのが当然あるわけですね。

博物館もそれ現実にやってるわけで、博物館のケースの中ってというのは恐らくもうだんだんだんだんだん暗くなって、私が現役にいた時よりおそらくもっと暗くしてるんだろうと 150 から 120 ルクスとか。浮世絵になってくるともう 80 ルクスだとかいうことで、もうそれだけだと本当に暗い、しかしそれを暗いと感じさせないような展示方法があります。

例えば浮世絵を専門にしている美術館等に行ったら分かるかと思いますが、そのために、周辺を暗くすることによって目の瞳孔をうまく利用して、ケースの中が明るく感じるように、色んな方法で博物館が工夫して展示してるわけなので、そういった光源の使い方っていうのがありますから、ただ明るくすることだけで終わるのではなくて、それはどのように明るく感じさせるかっていうようなことと思うんですね。十分考えていただく必要があると私は思っています。

やはりそこに入ってきた時の雰囲気を大事にするということであれば、まず最初には視覚的な問題になりますので、その場所が旧門司駅にふさわしいような雰

困気を醸し出すというのがまず最初だろうと思うんです。

それから中の展示物だとか解説文に行くわけで、最初から明るいというのは、私は必ずしも賛成はいたしません。やはり当時の時代的な光源、明るさ、こういったものを十分考慮してほしいなと思ってます。

これは具体的な展示まで入り込む話までするつもりはなかったんですけども、これやり始めると、壁面の使い方だとか、あるいは車椅子を使って来た方達にどう対応するかという非常に具体的な話になってしまいますので、今日はちょっとそこまで入っていいかどうか分かりませんでしたので申し上げませんでしたけれども、先ほどちょっと明るさっていうことが出てきて気になりましたので申し上げます。

（南座長）

ありがとうございます。その他、構成員の皆様いかがでしょうか。
では小野田さんお願いします。

（小野田委員）

今映っている画面の床下の遺跡が見えるところ、ガラス床のところですね。これは具体的に出てきた遺構のどのあたりを見せることになるのか、それともとりあえず仮に置いてみたということなのかどうか教えてください。

（南座長）

事務局お願いします。

（事務局（事業推進課））

取り出した遺構は、元の場所に置いたわけではございません。

（小野田委員）

それはとりあえず絵に入れてみたっていうだけで、具体的にその場所に決まってるわけではないという解釈でよろしいでしょうか。

（事務局（事業推進課））

実際に取り出し場所は、この壁のその奥、生涯学習センターの会議室の場所になります。取り出したものを、あの展示スペースに置いた形でございます。

（小野田委員）

遺構を移築するってということになるのですか。

（事務局（事業推進課））

移築になっております。

（小野田委員）

分かりました。移築する場合は、移築した場所と元の場所との関係が分かるようにしていただければと思います。

（南座長）

ありがとうございました。この他いかがでしょうか。

それでは本日も、非常に多様な多岐にわたるご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。事務局におかれましては、構成員から色々な観点から意見をお出しいただきましたので、それをしっかり踏まえて、検討をさらに進めていただければと思います。

それでは本日の会議内容としては以上となりますので、マイクを事務局にお戻しします。

（事務局）

ありがとうございました。

長時間にわたり、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

今回いただいた意見を参考に市内部で検討いたします。

次回第 3 回の懇話会についてはご意見をいただく項目を整理して、改めて日程調整させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、第2回旧門司駅関連遺構等の展示方策等検討懇話会を終わります。